

■瑞溪周鳳 禅僧。五山文学僧。政治力に優れて足利義教・義政に重用され、日本初の外交史書「善隣国宝記」を撰した。
ずいけいしゅうほう
明徳の乱・・・1391＝ 和泉国堺で、伴氏に生まれる。
南北朝合一・1392＝ 1歳：

応永の乱・・・1399＝ 8歳：応永の乱で、父を失い、
・・・・・・・1400＝ 9歳：上洛して異母兄に養われ、

勘合貿易成立1404＝13歳： 相国寺に行き、夢窓疎石の直弟子無求周仲のもとに参禅する。

・・・・・・・1406＝15歳： 得度剃髪，

足利義満没・1408＝17歳：
持氏鎌倉公方1409＝18歳：

・・・・・・・1413＝22歳： 周仲が死去したため、以後、厳中周竈に随侍して教えを受ける。

・・・・・・・1418＝27歳：

・・・・・・・1427＝36歳：
義教鑑引将軍1428＝37歳：

一時奈良で戒律・華嚴を学んで、

相国寺に帰っていたところ、

・・・・・・・1436＝45歳：*たまたま相国寺に参詣にきた将軍足利義教が“有道の衲子”と看破して帰依、山城景德寺住持に任じられ、
・・・・・・・1437＝46歳： (足利尊氏邸跡で足利氏菩提寺)十刹の一つ等持寺住持となり、

永享の乱終・1439＝48歳： 義教の命で、永享の乱の跡始末のため関東に使いするなど、政治力にも優れ、
結城合戦・・・1440＝49歳： *遂に相国寺住持となったが、
嘉吉の乱・・・1441＝50歳： 義教が暗殺されたため、退院し、庵をつくって隠棲、

また有馬温泉に旅行して、「入東記」「温泉行記」を書いた。

・・・・・・・1445＝54歳：
・・・・・・・1446＝55歳： 日記をつけ始め、以後、没するまで続ける。 鹿苑院塔主に任じられ、最高位の僧録司についたが、
成氏鎌倉公方1447＝56歳： 辞す。

・・・・・・・1452＝61歳： 有馬温泉に滞在し湯治。

享徳の乱始・1454＝63歳：

・・・・・・・1456＝65歳： 再び、鹿苑院塔主・僧録司に任じられるが、

・・・・・・・1460＝69歳： 足利義政に法華經を講じた後、辞任。

・・・・・・・1463＝72歳：
・・・・・・・1464＝73歳： 明の皇帝に贈る上表文の起草にあたり、また明から輸入すべき書物の目録を作成。

・・・・・・・1466＝75歳： *上表文製作の体験にもとづき、内外の外交関係史料をまとめて論評、対等外交を主張し、足利義満の冊封外交を批判して、日本最初の外交史書といわれる「善隣国宝記」を撰した。
応仁の乱始・1467＝76歳： 応仁の乱を避け北岩倉慈雲庵に住むが、炎上した相国寺の再建のため、3度目の僧録司に任じられる。

その後、慈雲庵に閑居し、
蓮如吉崎御坊1471＝80歳： 後土御門天皇に召され、生前の国師号を特賜される。

・・・・・・・1472＝81歳：
義政隠居後見1473＝82歳： 慈雲庵で、 没した。
詩僧としての活動も盛んで、「竹郷集」「臥雲稿」を著し、また諸書の章句を抜いて「刻楮集」を成した。没するまで27年間70数冊に及ぶ日記を遺し、惟高妙安が抜書した「臥雲日件録抜尤」が現在残っている。

「新日本禅宗史」、平凡社百科事典、インターネット、